

第2回アジア原子力協力フォーラム (FNCA)
コーディネーター会合の要約平成13年4月3日
FNCA日本コーディネーター
(社)日本原子力産業会議
常務理事 町末男

第2回コーディネーター会合は平成13年3月14日から3日間開催された(プログラムは資料1)。会合には、9カ国からインドネシア原子力庁スプキ長官、オーストラリアANSTOガーネット専務理事など17名の代表(コーディネーター)が参加、IAEAからはRCAコーディネーターが参加した(参加者は資料2)。以下成果のハイライトを紹介する。

1. 昨年11月にタイのバンコクで開催された第1回FNCA本会合での合意を踏まえ、今回会合においては、FNCAで取り組むプロジェクト、枠組、RCAとの関係などについて活発な討議がなされた。特に新規プロジェクトについては、参加国から13件の提案があり、これらを含め20件を超えるプロジェクトが各分野において討議され(資料3)、その内容について極めて活発な議論が行われ、合意文書が採択された(資料4)。これは、FNCAの基本であるイコールパートナーシップの向上を示すものとして高く評価できる。
2. これらのプロジェクトは昨年の第1回FNCA本会合で採択されたFNCAのビジョンおよびゴールに示された要件即ち、①アジア諸国のニーズに応えるものとする、②原子力技術が効果的に利用できるものとする、③社会的、経済的インパクトのある成果を目指す、等の観点から検討がなされた。なお、プロジェクトは関心国のみの参加によっても成立することになっている。
3. プロジェクトの実施は指名された各国プロジェクトリーダーを中心に進め、コーディネーターが総括する。コーディネーターは、予算措置なども含めて自国の原子力政策を踏まえた判断のできるシニアな者を当てることが再確認された。
4. フィリピンおよびタイ代表から、国内予算等のリソースを確保するためFNCAを正式な協定にすることが望ましいとの意見が出された。また、他の国からは、FNCA本会合にはすでに大臣級代表が出席しており、政府が承認している国際協力であるので、当面協定等は必要ないが、プロジェクトの進捗等に応じて、長期的には協定設定の検討も必要であろうとの意見もあった。
5. 次回FNCA本会合に関し、「アジアにおける持続可能な発展と原子力」を基調テーマとすることが提案された(前回のテーマは「アジアにおける原子力の将来とその安全性」)。今後、基調テーマ及び基調テーマと整合のとれた円卓討議のトピックスの決定に向けて調整する必要がある。

6. FNCAとRCAとの関連については、両者の間で相補的、相乗的効果が得られるようプロジェクトを立案することで参加者間の意見が一致した。

7. 特に注目された新規プロジェクト提案の検討結果を下記に要約する。

- (1) インドネシアによる「アジア原子力科学大学構想の検討」提案については、人材養成の重要性が強調され、括弧に議論された。今後、バンコクにあるアジア工科大学など、すでに各国に存在している優れた研究施設、訓練施設（Center of Excellence）を活用するネットワークの設立なども含めた可能なオプションにつき、人材養成プロジェクトの一環として検討する。
- (2) インドネシア提案によるプロジェクト「原子力エネルギーと環境」の目的はFNCA国が協力する調査研究により、人口の多いアジア地域において地球温暖化対策として原発が重要であることをより明確にすることである。今後、インドネシアが具体的なWork Planを作成し、第2回FNCA本会合で討議する。
- (3) ベトナム・日本提案によるプロジェクト「経済性と安全性のすぐれた低エネルギー電子線照射システムの開発」については、今年度中にプロジェクトのワークプラン策定会合を日本で開催する。本プロジェクトは電子線プロセスの産業利用の普及を図るものである。
- (4) ベトナムと日本提案によるプロジェクトで豆類の増産を目指す「低コストで環境に優しいバイオ肥料」についてはIAEAの活動との関係を考慮し、関係国における調査活動から開始する。
- (5) 核医学に最重要な放射性医薬品である「Tc-99mジェネレーターの開発・普及」はインドネシア・日本を中心に中国、韓国、マレーシア、タイ、ベトナムなどの参加を得て実施する。
- (6) 医学利用の分野では中国からBNCT（ボロンの中性子捕かくによる癌治療法）ラジオイムノセラピーについて提案があったが、前者は技術の有用性が定まっていないので時期早尚、後者は今後のワークショップでの専門家による検討・評価を待つ、ことになった。

以上、実施あるいは検討が定められたプロジェクト提案について、今後各国コーディネーターは担当機関及び担当者（プロジェクトリーダー等）と緊密な関係を取り、作業を進める。プロジェクトリーダーは活動推進のための参加国と一層強固なネットワークを確立してプロジェクトを進めていく。

第 2 回 FNCA コーディネーター会合プログラム概要
(東京グランドホテル)

	3/13 (火)	3/14 (水)	3/15 (木)	3/16 (金)
午前	施設訪問 (オフセッション) ・ 滝沢研究所 (医療用アイソトープ協会) ・ 日本アイソトープ協会	<u>開会セッション (9:30-10:15)</u> ・ 挨拶 (遠藤原子力委員長代理他) ・ 参加者紹介 ・ 記念撮影等	<u>セッション3 (継続)</u> (9:30-12:00) ・ 活動計画レビューおよび将来計画 - 全体討議 - 原子力損害賠償制度情報交換	<u>セッション5 (9:30-10:00)</u> ・ 第2回 FNCA 本会合開催 について
午前		<u>セッション1 (10:15-10:45)</u> ・ 第1回 FNCA 本会合成果等 <u>セッション2 (10:45-12:30)</u> ・ FNCA 推進各国カントリーレポート		<u>総括セッション (10:15-12:00)</u> ・ 合意文書採択 ・ 挨拶
午後		<u>セッション3 (13:30-18:40)</u> ・ 活動計画レビューおよび将来計画 - 分野別・協力活動のレビュー、3カ 年計画案等 - 新規活動・プロジェクト提案	<u>セッション4 (13:00-15:00)</u> ・ FNCA 活動の運営について <u>特別報告 (15:15-16:15)</u> ・ IAEA/RCA の活動状況	
午後		歓迎レセプション (19:00-20:30)		

第2回 FNCA コーディネーター会合主要参加者
 (2001年3月14日-16日 於東京)

1. 海外参加者

ヘレン・M・ガーネット ^{注1}	オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO) 専務理事
リー・シアン ^{注1}	中国国家原子能機構 (CAEA) 国際協力局地域協力担当官
イヨス・R・スプキ ^{注1}	インドネシア原子力庁 (BATAN) 長官
バクリ・アルビ ^{注1}	インドネシア原子力庁 (BATAN) 次官
キム・チャンウ	韓国科学技術部 (MOST) 原子力局原子力安全課長
アドナン・ハジ・カリッド ^{注1}	マレーシア原子力庁 (MINT) 企画対外関係部長
アルマンダ M. デラロサ ^{注1}	フィリピン原子力研究所 (PNRI) 所長代行
マヌーン・アラムラ ^{注1}	タイ原子力庁 (OAEF) 次官
レ・ドアン・ファ	ベトナム原子力委員会 (VAEC) 国際協力企画部次長
カルリート・R・アレタ ^{注1}	国際原子力機関 (IAEA) 東アジア太平洋課 RCA コーディネーター

注1) FNCA コーディネーター

2. 国内参加者

遠藤 哲也	原子力委員長代理
町 未男	FNCA日本コーディネーター (社)日本原子力産業会議常務理事
和田 智明	文部科学省研究開発局原子力課長
竹内 新也	文部科学省研究開発局原子力課国際原子力協力企画官
板倉 康洋	文部科学省研究開発局原子力課課長補佐
下山 俊次	日本原子力発電(株)最高顧問 ^{注2}
石川 迪夫	(財)原子力発電技術機構特別顧問 ^{注2}
小佐古 敏荘	東京大学原子力研究総合センター助教授 ^{注2}
佐々木康人	放射線医学総合研究所所長 ^{注2}
森 一久	(社)日本原子力産業会議副会長 ^{注2}
金子 義彦	武蔵工業大学原子力研究所長 ^{注3}
海江田圭右	(財)核物質管理センター審議役 ^{注3}
田野 茂光	元東京大学教授 ^{注3}
辻井 博彦	放射線医学総合研究所重粒子治療センター治療・診断部長 ^{注3}
會田 満男	電気事業連合会広報部部長 ^{注3}
田中 靖政	学習院大学法学部教授 ^{注3}
中杉 秀夫	(社)日本原子力産業会議 アジア協力センターコーディネーターオフィスグループリーダー

注2) アジア地域協力企画委員会委員

注3) アジア地域協力企画委員会分科会主査・プロジェクトリーダー

第2回コーディネーター会合に提案されたFNCAプロジェクトのリスト(含む継続中)

分野	プロジェクト	提案国	提案概要	備考
1. 研究炉利用	1-1 Te ジェネレーターの製造技術の確立と普及	日本	原研が開発した技術を基に、核医学診断に広く利用されるアイソトープ (Tc-99m)の製造技術の確立と普及を目的とした提案。	新規
	1-2 中性子放射化分析	日本	従来の中性子放射化技術全般の情報交換から、環境対策利用に目的を絞り、各国との共同測定研究・情報交換を通じて、環境対策に反映する成果を目指すものに変更。	計画変更
	1-3 中性子散乱の産業利用	日本	中性子散乱により材料の構造解析を進め、アジアに豊富な天然ゴム資源を用いて新高分子材料開発に資するもので、産業利用を目的としたプロジェクトへの変更提案。	計画変更
	1-4 脳腫瘍患者に対するボロン中性子捕獲療法 (BNCT)	中国	脳腫瘍患者と医師や薬理学専門家、BNCT 施設運転員を日本に送り、実際の治療と、関連する各種訓練研修を行なう提案。	新規
	1-5 中性子放射化分析(NAA)Ko法に関する訓練コース	中国	中国は、NAA の測定データの解析スピード精度を向上する手法 (Ko 法) に関するソフトウェアを開発。その利用にかんする経験を共有するための訓練コース開催の提案。	新規
2. RI・放射線の農業利用	2-1 植物の突然変異育種	日本	放射線による植物の突然変異による品種改良についての情報交換を従来から実施してきた。今後、各国のニーズをもとに対象品種を絞って目的を明確にして実施していく。例えば、種子繁殖のイネ、栄養繁殖のバナナやランなどを選定。	計画変更
	2-2 突然変異育種でのワケギ、ニンニクの品種改良	インドネシア	インドネシアではニンニクの質が輸入品に比べて劣り、立ち枯れ病で雨季には値段も高くなる。ワケギやニンニクの品種改良に放射線育種技術と生物遺伝子技術を組み合わせて計画的に実施することの提案。	新規
	2-3 突然変異育種による不毛地耐性コーリヤンの改良	インドネシア	γ線照射による不毛地に適するコーリヤン新品種開発の提案。ジャワ島以外での耕作地の有効利用をめざす。	新規
	2-4 バイオ肥料	日本・ベトナム	土壌を放射線で殺菌し、豆科等の特定作物の肥料となる窒素の固定化に最適な微生物を特定する研究開発の提案	新規

第2回コーディネーター会合に提案されたFNCAプロジェクトのリスト（含む継続中）

分野	プロジェクト	提案国	提案概要	備考
3. RI・放射線の医学利用	3-1 子宮頸がん放射線治療	日本	標準治療プロトコル（手順書）の普及および新しい治療法を取り入れた新プロトコルの共同研究に重点を置いて実施。プロトコルの有効活用と普及のためにガイドブックを作成。	継続
	3-2 がん診断のためのラジオイムノ・セラピー（RIT）の利用	中国	ヨウ素-131 標識化合物を使った肝臓がん等の発見診断・治療法の普及をめざす共同研究・訓練の提案。	新規
	3-3 アイソトープ標識化合物による抗原抗体反応を利用したがんの診断と治療	フィリピン	中国提案の延長で、乳がんを対象とした診断・治療法の共同研究実施の提案。	新規
4. 原子力広報	4-1 各国の広報活動支援	日本	従来の情報交換中心の活動から、各国の広報活動への支援活動（シンポジウム等へのオピニオンリーダーの派遣等）に重点を移していく。	計画変更
5. 放射性廃棄物管理	5-1 放射性廃棄物安全管理のための情報交換と報告書（ハンドブック）の作成	日本	地域での放射性廃棄物管理を進めていくため、各国での管理状況や技術開発動向等について専門家レベルでの情報交換を実施。また、各国の放射性廃棄物管理の状況をまとめた報告書（ハンドブック）の取りまとめ。	継続
	5-2 使用済線源管理システム整備への支援	日本	タイやフィリピンでの使用済線源による事故を踏まえたもので、モデル国と有志国でタスクグループを設置し、モデル国における管理システム整備を支援。モデル国の現状調査や処理・管理方法及び必要な設備の検討、協力計画の策定等の取りまとめ。	新規
6. 人材養成	6-1 各国のニーズの把握と人材養成戦略策定への支援	日本	参加国のニーズ把握を中心とした情報交換をベースに、各国の人材養成戦略策定を支援。特に安全分野における人材養成の支援に重点を置く。	継続
	6-2 アジア原子力科学技術大学構想の検討	インドネシア	工学・医学分野での放射線技術の利用・防護・規制の人材開発が産業育成に重要。また原子力発電関係の人材養成も視野に入れて、関係国で検討。ジョグジャカルタの機関を中心に、交流や情報交換に有効な制度の確立をめざす。	新規

第2回コーディネーター会合に提案されたFNCAプロジェクトのリスト（含む継続中）

分野	プロジェクト	提案国	提案概要	備考
7. 原子力安全文化	7-1 原子力安全文化の各国への普及	オーストラリア	オーストラリアが主導。研究炉の安全文化指標の適用や安全条約の研究炉への適用検討により、各国の原子力安全文化の育成に寄与。	継続
8. 新分野	8-1 電子線加速器利用	日本・ベトナム	低エネルギー電子加速器利用技術開発の提案。天然高分子を照射加工し、治療材料、化粧品、腐敗防止剤、農作物の成長促進剤を生産する技術に応用する。	新規
	8-2 原子力技術と環境の持続的発展	中国	殺虫剤、肥料、水による侵食、砂漠化などによる土壌環境に原子力技術を使う提案。	新規
	8-3 原子力エネルギーと環境	インドネシア	地球環境保全とアジア地域の成長のためのエネルギー確保には原子力発電が必要との立場での提案。原子力発電導入（含エネルギー・ベストミックス）、既存商用炉の比較、モジュラー型高温ガス炉についての研究と幅広い協力の実施について検討。	新規

アジア原子力協力フォーラム (FNCA)
第 2 回コーディネーター会合記録 (仮訳)
平成 13 年 3 月 14 - 16 日 東京

アジア原子力協力フォーラム (FNCA) の第 2 回コーディネーター会合が、2001 年 3 月 14 日～16 日、東京で開催された。

同会合には、オーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの代表者が参加した。更に、国際原子力機関 (IAEA) の代表がオブザーバーとして参加した。

1. 本会合は、2000 年 11 月 10 日～15 日、バンコクで開催された第 1 回アジア原子力協力フォーラムが以下を達成し、成功したことを確認した。
 - (a) ビジョン・ステートメント採択
 - (b) 目標と理念の設定
 - (c) 運営戦略の策定

FNCA の枠組は、プロジェクトへの参加に合意した国々による共通の理解、相互協力、資源のコミットメントを礎として、FNCA9 カ国での地域協力を効率的に推進することをねらったパートナーシップである。

2. カントリーレポートの発表では、次のような問題が扱われた：
 - ① 各国における国の原子力技術計画および優先順位設定
 - ② FNCA 活動の国の計画および国際的計画との連携
 - ③ FNCA 計画のインパクトを強化する選択肢
 - ④ 各国における原子力利用開発に対する障害および対策
 - ⑤ 原子力技術のエンド・ユーザーとの連携の強化手段。
 - ⑥ フィリピンとタイから、FNCA の公式協定の作成も考慮すべきとの示唆があった。
3. 現行の 7 分野の協力活動についてレビューがなされ、将来の方向が決定された。限られた資源の中で効率的、効果的な協力活動を進めることにより、より社会的、経済的効果を達成することの重要性が強調された。合意されたプロジェクトおよび今後の活動の一覧を示した行動計画を添付する。(別紙(1))
4. 新しい分野を含む新しいプロジェクトの提案が評価された。その結果も行動計画に示す。
5. 行動計画には、2001 年度に開催されるワーク・ショップの開催場所を含む。
6. FNCA の管理および運営、特に、FNCA コーディネーターおよびプロジェクト・リーダーの役割と責任のレビューが行われた。この結果、「FNCA の管理と運営」(別紙(2)) の文書の明確化と採択がなされた。

7. RCAコーディネーターよりRCAの活動についての特別報告があった。これを踏まえ、FNCAとRCAの間の、望ましい適切な相乗効果について意見交換がなされた。
8. いくつかの国における原子力損害賠償制度の現状に関する情報交換が行なわれた。国内および国際的な原子力損害賠償制度の重要性が認識された。
9. 第2回FNCA本会合のあり方について討議がなされた。この会合は、暫定的に本年の11月中旬、日本において開催することとした。日本のコーディネーターより、後日、具体的計画を連絡することとした。

(以上)

行 動 計 画

7 分野のプロジェクト

1. 研究炉の利用

- a. 天然ゴムと1ないし2のポリマーから誘導される熱可塑性弾性体の特性を研究する小角中性子散乱プロジェクトを2001年に開始することが支持された。プロジェクトリーダーの次回会合は2004年に開催される。
- b. 中性子放射化分析プロジェクトの提案は、RCAの成果をできる限り取り入れる形で、RCA環境プロジェクトの補足となるよう修正すべきである。中性子放射化分析プロジェクトは、(a) 多くの環境試料を分析するのに有用な解析ツールとしてのKo法の確立、および (b) 環境政策に関わる当局との連繋の強化、および (c) 将来のKo法適用に備え適切な数のモニタリング・ステーションを持つことの奨励、に焦点を絞るべきである。
- c. テクネチウム (Tc-99m) ジェネレーター・プロジェクトは、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイおよびベトナムを含め、大多数のFNCA諸国により支持された。
- d. ある国々は、中国によるボロン中性子捕獲療法 (BNCT) の提案に対し、この技術が、脳腫瘍および皮膚がんの治療の効果的な方法として実証されたものではないという理由から保留を表明した。FNCAとしては、BNCTに関する最新の情報を収集するため、当該の専門家による小さなワークショップを開催する可能性がある。その参加者は、現在ないしは近い将来、BNCTのため使用することのできる原子炉を保有する国に限定すべきである。

2. アイソトープ・放射線の農業利用

- a. イネおよびコーリヤンの突然変異育種は、今後の活動で優先順位の高い項目として強く支持された。この中で、イネに関するプログラムは、RCAを補完するものであることが指摘された。プロジェクトの策定を含め、技術的詳細は、次回のワークショップで討議すべきである。
- b. 大多数の国々は、1995年に終了したバイオ肥料に関するRCAプロジェクトの補完であるということを経験にバイオ肥料プロジェクトを支持する。これに関して、適切な根粒バクテリア種の選択に重点を置く。ここでは、豆類穀物、飼料用豆類、イネ、プランテーション用の被覆作物等、農業におけるバイオ肥料の拡大使用に焦点を絞る。環境上および経済上の利点という観点から、原子力技術は主要な技術コンポーネントである。IAEAの報告書によれば、タイはFNCA諸国のうち、バイオ肥料を広範に使用している唯一の国である。最初のプロジェクト会合時、さらに討議し、プロジェクトのスコープを作成するため、参加国から、バイオ肥料利用の現状が報告されるべきである。

3. アイソトープ・放射線の医学利用

- a. 子宮頸がんの放射線治療に関するプロジェクトは継続し、プロトコルを

普及させていく。

- b. 中国およびフィリピンからラジオイムノ検出および治療が提案された。次回のワークショップ時に肝がんおよび乳がんの治療および診断に関するすべての核医学実践について討議する。

4. 原子力広報

- a. FNCA 諸国は、各国の広報戦略を共有し、効果の評価尺度を提案することが奨励される。プロジェクト・リーダー会合では、各国のニーズに対しての具体的な支援活動が検討されるべきである。
- b. プロジェクト・リーダー会合は、討議すべき1、2の特定の主題を持つべきであることも提案された。例えば、必要のある国における広報担当官のための世論調査の手法の訓練である。
- c. 各国の様々な文化における、原子力関連広報の有効性に影響を与える要素を明らかにすることも必要である。

5. 放射性廃棄物管理

- a. 使用済放射線源のより安全な管理の強化に関するプロジェクトの提案は、支持された。ただし RCA および他の IAEA の活動と緊密な連絡を図っていくべきことに留意する。フィリピンおよびタイがボランティア国となる。
- b. 放射性廃棄物管理についての統合報告書（ハンドブック）の作成も支持された。

6. 原子力安全文化

- a. このプロジェクトは、FNCA 諸国が積極的に参加することで、強く支持され継続される。
- b. 本会合は、コーディネーターが自国の当局に対し、(a) 原子力安全条約をできるだけ早く締結ないし批准し、また、(b) 安全文化の慣行に関する国の計画を強力に支持するよう、促すことを奨励する。

7. 人材養成

- a. 活動の焦点を、原子力安全、特に放射線安全および廃棄物管理の安全の拡充のための人材養成戦略活動に絞るよう、コメントがなされた。
- b. インドネシアから提案されたアジア原子力科学技術研究所 (AINST) について、多くの意見があった。しかしながら、この概念に関するフィージビリティ・スタディは、既存の、センター・オブ・エクサレンス (COE) の利用を含め、幾つかの可能な選択肢を見出すため実施することが支持された。

新規プロジェクト

1. 原子力エネルギーおよび持続的な開発

このプロジェクトは、インドネシアから提案されたものであり、フィリピン、タイおよびベトナムを含め数カ国により支持された。このプロジェクトの重要性は、本会合で充分認識された。しかしながら、この提案の特定の活動は、原子力発電に関する比較調査を行っている IAEA の広範な活動を補完する作業計画とすることを含め、更に明確に規定されるべきである。インドネシアは、更に活動および作業計画を具体化した説明をできる限り早急に作成し、FNCA 諸国に回付する。この提案は、第 2 回 FNCA 本会合で更に討議する。

2. 電子線加速器 (EB) の利用

日本およびベトナムから提案されたこの計画は、大多数の FNCA 諸国から支持された。ベトナムは、資金的な問題があり、加速器を設置する立場にない。実証技術に関わるワーク・ショップを日本で既存の施設を用いて開催することが可能である。日本の EB システムを、実証プラントとして賃貸ベースで FNCA 諸国が使用できるようにし得るのではないかという示唆があった。FNCA 諸国の機器を利用し低コストの EB システムの設計および組立てを行い、FNCA 諸国間の専門知識を利用してコストを低減することも提案された。

3. 原子力技術および環境の持続可能な開発

中国から提案されたこのプロジェクトは、広範な活動をカバーしている。しかしながら、中国は、このプロジェクトを日本およびベトナムから提案されたような新しいバイオ肥料の開発利用プロジェクトを通して実施してもよいことを提案した。これは、土壌の劣化を防止することに寄与するものである。

FNCA 関連ワークショップ・会合開催スケジュール (案)

会合名	活動概要	2001 年	2002 年 *	2003 年 *
FNCA 本会合		日本 (11 月)	韓国	
コーディネーター会合		日本 (3 月)	日本	
研究炉利用	①研究炉の利用	WS : 中国 (11 月 5 日-9 日)		
	②Tc ジェネレーターの製造技術の確立と普及	上記 WS で説明することが提案された。	SWS : インドネシア (11 月)	SWS
	③中性子放射化分析	上記 WS で検討	WS	WS
	④中性子散乱の産業利用 (天然ゴム利用)	上記 WS で検討		
RI・放射線の農業利用	①植物突然変異育種	WS : タイ (8 月 20 日-24 日)	WS : 中国	
	②バイオ肥料	上記 WS で検討		
RI・放射線の医学利用	①子宮頸がん放射線治療	WS : マレーシア (10 月 29 日-11 月 2 日)		
	②核医学診断と治療における原子力技術	今後検討		
原子力広報	各国の広報活動支援 (PL 会合)	M : フィリピン (7 月)		
放射性廃棄物管理	①統合報告書の作成	WS : ベトナム (12 月)	WS : 韓国	WS : インドネシア
	②使用済み線源の管理タスク活動	フィリピン、タイで実施	フィリピン、タイで実施	
原子力安全文化	安全文化向上のための諸活動	WS : 日本 (9 月)		
人材養成	各国のニーズの支援と情報交換	WS : 韓国 (10 月 29 日~11 月 1 日)		
電子線加速器の利用		M : 日本		

WS : ワークショップ SWS : サブワークショップ (実験含む) M : 少数会合 or PL 会合 * 今後予算措置をしていく

FNCA の管理および運営

1. FNCA 本会合

FNCA の管理体制は、バンコクにおける第 1 回 FNCA 本会合で合意された。FNCA 本会合は、閣僚級および最上級行政官の参加者からなるものである。この会合において、原子力技術の平和利用に関する地域協力拡充のための政策課題に関する意見交換がなされる。FNCA の枠組み下のプロジェクトの行動計画は、適宜承認・了承される。

2. コーディネーターおよびコーディネーター会合

各国のコーディネーターは、自国における FNCA プロジェクトの調整・実施に責任を持つ。その役割は、有効なプロジェクト管理を行うこと、国の計画およびエンド・ユーザーとの連繋、自国の参加するプロジェクトの資金確保、および他の多国間および二国間のメカニズムとの潜在的補完性に対する理解を含む。これには、コーディネーターが権限を有する上級者であることを必要とする。

コーディネーター会合は、年 1 回開催され、現行プロジェクトの実施状況をレビューし、新規プロジェクトの創始、プロジェクトの中止、ならびにプロジェクトの明確な方向性の設定を含め、将来計画を討議する。コーディネーター会合の結論および勧告は、行動計画の一部として、承認あるいは確認のため FNCA 本会合に提出されるべきである。

3. プロジェクトおよびプロジェクト・リーダー

プロジェクトは、明確な目標、マイル・ストーン、時間枠組みならびに作業計画を有する。これには、期待される成果物および可能性のある成果を含む。レビューおよび、それに基づく指示を仰ぐため、全体的なプロジェクト報告をコーディネーター会合で行うべきである。各参加国のプロジェクト・リーダーは、自国におけるプロジェクトの策定、実施に責任を有する。また、他国のプロジェクト・リーダーたちと協力し、プロジェクトの目標達成のため作業する。プロジェクトリーダーは自国の FNCA コーディネーターと定期的に連絡を取る。

また、プロジェクト・リーダーは頻繁に連絡を取り合い、また、定期的に、通常年 1 回会合を持ち、協力プロジェクトの成果を共有し、効果的な協力と将来計画を確認する。